

百合子賞 佳作 受賞作品

## 思い出

郡山ザベリオ学園中学校

### 笑う

笑うことはいいこと  
周りも笑顔になるし  
心も明るくなる

そう簡単じゃない  
笑いたくないときもある  
心の明かりを見失って  
再スタートを踏み出せなくなる日もある

でも  
そういう時こそ笑っている自分がある  
自分の感情と裏腹に  
無理に笑わなくていいのに  
笑いたくないのに

感情をさらけ出す勇気がない  
弱い

もつと もつと もつと  
強くなりたい

### 友達の形

何でか分からない  
大しておもしろくないのに  
目があっただけで  
一緒にいるだけで  
笑うのを止められない  
あの子といれば 心から笑えた

時に笑って怒って  
それが良かった  
ぶつかって 傷ついて  
一つになった  
分かり合えた  
今 初めて  
友達の形に気づいた

## 花

学校裏に咲いた白い花  
どこからか飛んできて  
土の感触  
日の光  
だけを頼りに  
一人で生きている

踏まれても 踏まれても 踏まれても  
逆境に負けず  
必死に生きている  
その花は  
誰よりも輝いていた

## 日常

鳴り止まない挨拶の声  
学校の匂い  
並んだ靴  
見慣れた顔ぶれ  
普段通り  
あたりまえ  
だと思ってた

「ずっと」なんてなかった

急に途切れたり  
なくなったりした  
そして  
なつかしくなった  
いつもの毎日が うれしくなった  
これからも 覚えていたい  
日常を

## 今の心

いろいろなことがあった  
良いことばかりじゃなかったけど  
複雑だったけど  
特別だった

今は単色では表せない  
色が混ざり合って  
もはや何色か分からない気持ち  
きれいな色じゃないかもしれないけれど  
宝物になった

未来の自分に  
辛くなったら  
自分の心を  
聞いてほしい 見てほしい

笑ってても 泣いてても

必死に

自分でいてほしい

(指導教諭／西山秀典)

### 《作品の意図》

この詩をかく上で、私は、中学校三年間を振り返りました。その時、思い出したのは、何かの行事でも、特別楽しかったことでもありませんでした。私が一番最初に思い出したのは、辛かったことや傷ついたこと、そして、休み時間、友達とくだらない話をしたことなどでした。親や友達との衝突、怒られたこと、友達に言われたシロツクなこと、これらは、辛かったけれど自分の身になったし、自分だけではできなかった貴重な体験でした。もちろん、楽しかったこともたくさんありましたが、あまり覚えていません。また、行事などよりも、休み時間くだらないことで笑ったり、ふざけたりした時間の方が意外にも鮮明に思い出すことができます。これらのことを詩に素直に書きました。自分の嫌いな所、大切な思い出、卒業に追っていく今の気持ちなど、これから先も忘れたくないことを詩に残しました。

### 《作品の寸評》

何気なく過ごしている日常の感覚を飾らない言語で素直に表現しているところに好感がもてる作品である。中学三年生としての今の自分を見つめることで改めて周囲の人々への感謝や未来への希望を抱く姿が伝わる。

「笑う」は、「自分の感情とは裏腹に」笑う自分に気づき、もっと強くなりたいたいと願う率直な思いが表現されている。「友達の形」は、「ぶつかって 傷ついて わかり合えた」と表現し、友達をかけがえのない存在と

して感じ始めた新しい自分を表現している。「花」は、逆境に負けずに一人で生きている一輪の花の姿を生き方の手本にしたという心情が伝わる。「日常」では、いつものあたりまえの毎日の素晴らしさに気づき、感謝の思いを抱く自己の成長を描いている。「今の心」は、自分の気持ちを色が混ざり合った「宝物」とたとえ、中学校生活の様々な出来事や経験を通して成長した自分を描き、未来の自分へのエールで締めくくり、さわやかな読後感をもたらしてくれる。

(審査員／齋藤 ゆきい)